

花嫁の建造

聖書：創 1:26. 2:7-10, 18-25. 啓 19:7-9. 21:9-11

I. 神の建造は、全聖書の中心的な事柄です。キリストの花嫁は、三一の神の建造です——「エホバ・神は、その人から取ったあばら骨を一人の女に建造し、彼女をその人の所に連れて来られた」——創 2:22：

A. 全聖書は建造の説明書にたとえることができます。聖書における神聖な啓示の開始であるエデンの園に関する啓示と、聖書における神聖な啓示の終わりである新エルサレムに関する啓示は、互いに反映しています。

B. 聖書のこれら二つの部分で啓示されていることは、神の中心思想、神聖な啓示の中心路線、聖書を解釈し理解する支配的な原則です：

1. 創世記第 1 章と第 2 章は、神の有機的な建築計画の青写真であり、神の神聖な建造を得るためです（ヘブル 11:10）。神の願いは、キリストをわたしたちの内在的な構成の中へと建造して、わたしたちの全存在がキリストで再構成されるようにすることです。このようにして、神は団体の人を得て、彼のかたちにおいて彼を表現させ、彼の権威をもって彼を代行させることができます（創 1:26. I コリント 3:9. マタイ 16:18. サムエル下 7:12-14 前半）。

2. 啓示録第 21 章と第 22 章は完成した建築物の写真、すなわち三一の神の団体の表現です。新エルサレムは、エデンの園に関する神聖な啓示の反映と成就です。

3. キリストは花婿として戻って来て彼の花嫁と結婚します。この花嫁は勝利者の総合計です。この時代における勝利者によるこの建造は、王国時代における新エルサレムの初期の完成のためであり（19:7-9）、最終的に新天新地における新エルサレムの満ち満ちた完成のためです（21:2）。

4. 聖霊が歴代にわたって絶えず働くことによって、この時代の終わりにこの目標に到達します。その時、花嫁、すなわち勝利を得た信者たちは用意が整えられており、神の王国が到来します——マタイ 26:29. 13:43。

5. 団体の花嫁、すなわち新エルサレムは、神の定められた御旨の二つの面を成就します（創 1:26）。第一に、新エルサレムは神の満ち満ちたかたちにおける神の満ち満ちた表現となり、彼に栄光を得させます（啓 21:11. 参照、4:3）。第二に、この新エルサレムは敵を服従させ、地を征服し、神の権威を行使して統治権をもって全宇宙を治めます（創 1:26. 啓 22:5. 参照、20:10, 14-15）。

C. わたしたちは神の民として神との愛の関係の中へと入るとき、神の命を受けます。それは、エバがアダムの命を受けたようにです。この命が、わたしたちを神と一にならせ、神をわたしたちと一にならせることができます——創 2:21-22。

Ⅱ. 神と彼の民が一になるためには、両者の間に相互の愛がなければなりません。聖書の中で明らかにされている神と彼の民との間の愛は、おもに男女の間の愛情深い愛のようです——ヨハネ 14:21, 23. エレミヤ 2:2. 31:3 :

- A. 神の民が神を愛し、時間を費やして彼の言葉の中で彼と交わるとき、神は彼らに彼の神聖な要素を注入し、彼らを彼と一にして彼の配偶者とし、命、性質、表現において彼であるのと同じにします——詩 119:140, 15-16。
- B. 神がまずわたしたちを愛し、彼の愛をわたしたちに注入し、わたしたちの内側で愛を生み出しました。わたしたちはこの愛をもって、神を愛し、兄弟たちを愛します——Ⅰヨハネ 4:19-21。
- C. わたしたちが神から受けた命は、愛の命です。キリストはこの世において、神が愛であることの生活を生かし出しました。今や彼はわたしたちの命であり、それによってわたしたちはこの世において、同じ愛の生活を生かし出し、彼であるのと同じになります——3:14. 5:1. 2:5-6. 4:17。
- D. わたしたちの天然の愛は、十字架の上に置かれなければなりません。神の愛とわたしたちの天然の愛との一つの違いは、わたしたちの天然の愛はとても容易に気分を害するということです。
- E. わたしたちは、キリストの愛によって押し迫られ運び去られている人にならなければなりません。神聖な愛は、大水のようにわたしたちに押し寄せ、わたしたちを駆り立てて、彼に生きざるを得ないようにさせるはずです——Ⅱコリント 5:14。
- F. 兄弟愛に関する戒めは、古い戒めでもあり、新しい戒めでもあります。古い戒めであるのは、信者たちがそれをクリスチャン生活の初めから持っていたからです。新しい戒めであるのは、クリスチャンの歩みにおいて、この戒めが何度も夜明けの光を昇らせ、何度も新しい照らしと新鮮な力をもって輝くからです——Ⅰヨハネ 2:7-8. 3:11, 23. 参照、ヨハネ 13:34。
- G. からだは、愛の中でそれ自身を建て上げて、キリストの花嫁となります（エペソ 4:16）。神がわたしたちに与えた再生された霊は、愛の霊です。わたしたちは、今日の召会の墮落を征服するために、燃える愛の霊を必要とします（Ⅱテモテ 1:7）。
- H. 「知識は人を思い上がらせますが、愛は建造します」（Ⅰコリント 8:1 後半. 参照、Ⅱコリント 3:6）。互いに愛し合うことは、わたしたちがキリストに属していることのしるしです（ヨハネ 13:34-35）。召会の中でかしらになりたがることは、すべての兄弟たちを愛することに相対します（Ⅲヨハネ 9 節）。
- I. 主イエスが彼の魂の命を捨てて、わたしたちに神聖な命を得させてくださったように、わたしたちはキリストの花嫁の用意を整えるために、からだの生活を実行するとき、わたしたちの魂の命を捨てて、自己を否み、兄弟たちを愛し、彼

らに命を供給する必要があります——Ⅰヨハネ 3:16. 4:17 とフットノート 5. ヨハネ 10:11, 17-18. 15:13. エペソ 4:29—5:2. Ⅱコリント 12:15. ローマ 12:9-13。

- J. キリストの有機的なからだとしての召会の建造のために、わたしたちが何であれ、また何をしようとも、愛が最も卓越した道です——Ⅰコリント 12:31 後半—13:8 前半。

Ⅲ. わたしたちは、神がご自身のための配偶者を生み出すために、何を行なったかを見る必要があります。創世記第 2 章は、アダムとエバの予表において、キリストと彼の花嫁の絵を啓示しています：

- A. アダムが予表するのは、神がキリストの中で、真の宇宙的な夫であり、ご自身のために妻を捜し求めているということです——ローマ 5:14. 参照、ヨハネ 3:29. Ⅱコリント 11:2. エペソ 5:31-32. 啓 19:7-9. 21:9-11。
- B. 「エホバ・神は言われた、『その人が独りでいるのは良くない。わたしは彼に、彼の配偶者としての助け手を造ろう』」——創 2:18：
1. アダムが妻を必要としたことが予表し描写しているのは、神が彼のエコノミーの中で、彼の配偶者また彼の補完（文字どおりには、彼の対）としての妻を得ることを必要としているということです。神、キリストは絶対にそして永遠に完全ですが、彼の妻としての召会がなければ、彼は全体的ではありません。
 2. 神は、キリストを予表するアダムと、召会を予表するエバの両方を持つことを願っておられます。神の目的は、「彼らに……治めさせ」ることです（1:26）。それは、勝利を得たキリストに加えて勝利を得た召会を得ること、すなわち、悪魔のわざに打ち勝ったキリストに加えて悪魔のわざを打ち倒した召会を得ることです。神は、キリストと召会に治めてもらいたいのです（ローマ 5:17. 16:20. エペソ 1:22-23）。
- C. 神は土から野のあらゆる動物と、天のあらゆる鳥を形づくり、それらをアダムに連れて来ました。「こうして、その人は、すべての家畜と空の鳥と野のあらゆる動物に名を付けたが、アダムのために、彼の配偶者としての助け手が見当たらなかった」——創 2:19-20。
- D. 妻は、命、性質、表現において、夫と同じでなければなりません。家畜、鳥、動物の間で、アダムは自分のための補完、彼に符合し得る者を見いだしませんでした——23 節。
- E. 神はご自身のための補完を生み出すために、まず人と成りました。それは、神がアダムを創造することによって予表されています——ヨハネ 1:14. ローマ 5:14。
- F. 「エホバ・神が、その人を深い眠りに陥らせられたので、彼は眠った。そして彼のあばら骨の一つを取って、その場所を肉でふさがれた」——創 2:21：

1. アダムが深い眠りに陥って彼の妻としてのエバを生み出すことは、キリストが十字架上で死んで、彼の配偶者としての召会を生み出すことを予表します——エペソ 5:25-27。
 2. 聖書の中で、眠りは死を意味します—— I コリント 15:18. I テサロニケ 4:13-16. ヨハネ 11:11-14。
 3. キリストの死は、命を解き放ち、命を分け与え、命を増殖させ、命を繁殖させ、命を複製する死です。それは一粒の麦が地に落ちて死んで、成長し、多くの麦粒を生み出して (12:24) 、パンを作ることによって表徴されています。このパンはからだ、召会です (I コリント 10:17) 。
 4. キリストの死を通して、彼の内側の神聖な命が解き放たれました。そして彼の復活を通して、彼の解き放たれた神聖な命が彼の信者たちの中へと分け与えられて、召会を構成しました——ルカ 12:49-50. 参照、ローマ 12:11. 啓 4:5。
 5. そのような過程を通して、神はキリストにあって彼の命と性質を伴って、人の中へと造り込まれてきました。それは、人が命と性質において神と同じになって、彼の配偶者として、彼に符合することができるためです。
- G. 「エホバ・神は、その人から取ったあばら骨を一人の女に建造し、彼女をその人の所に連れて来られた」——創 2:22 :
1. アダムの開かれた脇^{わき}から取られたあばら骨は、キリストの砕かれ得ない、不朽の、永遠の命を予表します (ヘブル 7:16. ヨハネ 19:32-33, 36. 出 12:46. 詩 34:20) 。この永遠の命は、彼の突き刺された脇から流れ出ており (ヨハネ 19:34) 、彼の信者たちに命を分け与えて、彼の配偶者としての召会を生み出し建造します :
 - a. キリストの脇からは血と水が流れ出ましたが、アダムの脇から出てきたのはあばら骨だけであり、血はありませんでした。
 - b. これは、アダムの時には、罪がなかったので、血を通しての贖いの必要がなかったからです。キリストが十字架上で「眠っていた」時には、罪の問題がありました。こういうわけで、キリストの脇から流れ出た血は、わたしたちの法理的な贖いのためであったのです。
 - c. 血の後に水が流れ出ました。この水は、神の流れる命であり、わたしたちの有機的な救いのためです (出 17:6. I コリント 10:4. 民 20:8) 。この神聖で、流れる、非受造の命は、アダムの脇から取り出されたあばら骨で予表されています (ローマ 5:10) 。
 2. 創世記第 2 章 22 節は、エバが創造されたのではなく、建造されたと言っています。アダムの脇から取られたあばら骨でエバを建造することは、復活の命をもって召会を建造することを予表します。この復活の命は、キリストの十字架上での死を通して彼から解き放たれ、彼の復活の中で彼の信者たちの中

へと分け与えられました——ヨハネ 12:24. I ペテロ 1:3。

3. 召会は真のエバとして、すべての信者たちの中にいるキリストの総合計です。

召会はキリストの複製です。召会の中には、キリストの要素以外に、他の要素があるべきではありません——創 5:2。

H. キリストから復活の命を伴って出て来るものだけが、彼の花嫁としての補完とすることができます (I コリント 12:12. エペソ 2:6. 5:28-30)。召会はキリストから出た純粋な産物です。召会は「キリスト的」、「復活的」、天的です。

I. アダムとエバは一であり、夫と妻として共に結婚生活をしました (創 2:24-25)。これが描写しているのは、新エルサレムにおいて、手順を経て究極的に完成された三一の神が、宇宙的な夫として、贖われ、再生され、造り変えられ、栄光化された妻としての人と結婚生活をし、永遠に至るということです (啓 22:17 前半)。

J. 彼らは終わりのない永遠において、神聖で、永遠の、超越した、栄光の命によって、神と人がミングリングされて一つ霊になった、最高に卓越した、祝福と喜びに満ちあふれた生活をします。